



亀っ子だより

第42号

— 亀崎小学校 校長通信 —

2021年7月7日

ほっぺをすりむいた男の子

ある朝、立哨を終えて学校に向かって歩いていると、ボラパトさんと一緒に歩いてくる男の子と会いました。ボラパトさんの話では、登校途中にこけてしまい、ほっぺをすりむいてしまったので、家に帰って手当をしてもらおうと戻ってきたとのことでした。ボラパトさんは仕事があるので、私が男の子と一緒に自宅まで戻ることになりました。ほっぺのすり傷を見ると結構大きくて痛そうでした。「家には誰かいてくれるかな」と尋ねると「お父さんがいると思う」とのことでした。途中、私のとりとめもない話にきちんと答えてくれるので、これだけ受け答えをしてくれるならきっと大丈夫だろうと思い歩いていました。家について呼び鈴を押すと、お父さんが出てきてくれました。その男の子はお父さんの顔を見るなり「わっ」と泣き出し、お父さんの胸に飛び込んでいきました。きっと、痛いのとショックだったのを我慢して、泣きたい気持ちをごっそりこらえて、私の話に付き合ってくれていたのかと思い、胸が痛くなりました。お父さんに手当をお願いして、私は学校に向かいました。途中、出かける前の忙しいお父さんに手当をお願いして、申し訳ないことをしたと後悔しながら歩いていました。学校に着くと、学校へ送り終えたお父さんとちょうどすれ違いました。「大変申し訳ありませんでした」と言うと、お父さんは笑顔で応えてくれました。男の子の我慢強さと、お父さんの優しさに感謝した朝でした。



千葉県での交通事故の報道を見て

6月28日、千葉県で小学生が巻き込まれる交通事故がありました。事故に遭われたお子さんの保護者の皆様はじめ、お子さんに関係する全ての方々の無念さの思うと言葉がありません。日本中が、二度とこのような事故を起こしてはならないと強く思ったことでしょう。

亀崎小学校区の交通事情を考えると、朝の交通量の多さ、通学路が抜け道として使われているところもあること、坂道が多かったり見通しが悪かったりする場所が多いことなど、心配はつきません。このような状況の中、毎朝ボラパトさんやPTAの方が交通立哨してくださり、下校時もボラパトさんが立哨してくださる場所が増えています。横断するときには安全確保をしてくださることへの感謝はもちろんですが、黄色い帽子とベストを身につけたり旗をもったりする人が道にいてくださるだけで、運転手への注意喚起の効果があると思っています。皆様の大変さを考えると、軽々しくお願いできることではありませんが、これからはなんとか続けていってほしいと願っています。交通安全教室及び日々の交通安全指導は、学校が果たさなければならない責務です。しっかり行っていかなければならないと考えています。今年度の交通安全教室は、交通指導員さん、PTAの皆様のご協力のもと、1・2年生は歩行訓練、3～6年生は自転車訓練を行いました。ご家庭でも、夏休みに向けて交通安全について話をいただければと思います。よろしくお願いします。



表彰の記録

- 第1回アクトスジュニア通信スイミングカップ
25m自由形 第1位 間瀬 琉久（5年）
- 名古屋地区小学生春季第1回記録会
小学6年男子 コンバインドA 第5位 片山 迅（6年）
小学5年男子 コンバインドB 第4位 中島 悠理（5年）
- 令和2年度愛知県緑化ポスター原画コンクール
小学生の部 入選 間瀬 成修（4年）
- 名古屋地区小学生春季第2回記録会
小学4年男子 走り幅跳 第5位 日置 悠登（4年）
- 日清食品カップ 第38回全国小学生陸上競技大会 愛知県予選会
小学5年混合4×100mR 第4位 中島 悠理（5年）

♣ 子育てアラカルト ♣

【親としての覚悟】

人は、窮地に立たされたとき、どういう行動をとるかですべてが分かると言われて
いる。次のようなとき、親であるあなたははどうするだろうか？

頻発する万引きに業を煮やし、そのシーンをビデオで隠し撮りして発売した本屋さ
んが、かつて物議をかもしたことがあるように、本屋さんにとって万引きはとても頭
の痛い問題である。

店内に防犯カメラを設置するなどして対策に当たっているが、あまり効果が発揮さ
れていないのが現状だ。

ある本屋さんの場合も、中学生や高校生による万引きの被害が毎日のように出てい
た。彼らの中には、発見して注意しても、反省するどころか「金を払えばいいんだろ
う」とすごむ者までいた。

ある日曜日の夕方、コミック本を5冊も万引きした男子中学生を二人見つけたとき
も、二人の態度は不遜そのものだった。頭を下げて謝るどころか「金ならあるよ。払
えばいいんだろう」と居直る始末。

あまりの態度に、親と連絡をとりたいからと告げても、電話番号すら教えようとし
ない。店長に「警察へ行くか!？」といわれて渋々口を開いたものの、反省の色など
まったく見えない。

慌ててやってきた片方の少年の母親の態度もひどいものだった。いきなり少年のほ
ほを殴り、かんかん怒ったまま少年の手を引っ張って、何も言わずに店を出ていっ
た。まるで、「私は厳しく育てているんですよ」と周りに分からせるかのようによ…。

だいたいがこのパターンか、「うちの子に限って…」と言いながら、あくまでわが
子の非を認めようとしめない親がとても多かった。

しかし、この日の万引きの少年のもう一人の親は、ちょっと様子が違った。ネクタイ
をきちんとしめた紳士然とした父親が現れたかと思うと。店長に、「ご迷惑をおか
けしました」と一言。そのあと、店内で頭を床にこすりつけんばかりに土下座したの
である。その顔は、涙でグショグショに濡れていた。

この父親は、一言も息子を責めなかった。何かの間違いだとも言わなかった。息子
を殴りもしなかった。ただ無言で土下座したのだ。

他のお客さんが大勢見ている中での土下座。どれだけつらく、情けなく、悲しかっ
たことだろうか。

しかし、そんな父親を見ている息子の目からは涙が止めどなく流れ落ちていた。
（「心あたたまる話」より 〈雄鶏社〉）

【心に刻む言葉】

人類最大の発見は、人はその心構えを変えれば 人生を変えることができる！

【心に刻む言葉】

困難だからやろうとしないのではない。やろうとしないから困難なのだ！
ーセネカーー

（ある教育者のひとり言 より）